



馬が登場する本

『赤毛のアン』 カナダ

孤児院にいたアンは、子どもがほしいという家にひきとられることになり、期待に胸をふくらませていました。でも、ほしかったのは、実は男の子だったので…。空想好きで、どんなときも明るく前向きに生きようとするアンの、ドキドキする毎日が始まります…。



『三銃士』 フランス

国王を守る銃士になることを夢見て、パリにやってきたダルタニヤン。しかしフランス王宮では、国王と王妃をおとしいれようとするいんぼうが、くわだてられていました…。



物語は、内気なマシュウが、馬車で出かけているのをリンド夫人が見て、不思議に思うシーンから始まります…。



『西遊記』 中國
石から生まれたサルが修行をつみ、孫悟空と名をもらったものの、天界でおおあられし、長い間、山の下敷きにされていました。そんな孫悟空ですが、たくさんの人をすくうため西天へお経を取りに行く三藏法師のおともをすることになります。そうして旅のとちゅうで出会った仲間と、不気味な妖怪たちに立ち向かうことになるのです…。三藏法師が乗っているまつ白な馬、実は観音様が三藏法師一行を守らせるため、○○を馬にかえたのでした。さて、その○○とは何でしょうか？ 読んでみてね！

『長くつ下のピッピ』 スウェーデン

町のはずれの「ごたごた荘」に、ピッピといいう元気で、自由で、みりょくいっぱいの女の子が、ひっこしてきました。となりの家に住むきょうだいたちと仲良くなり、はちゃめちゃで楽しい毎日が始まります…。



『名探偵シャーロック・ホームズ』 イギリス

ホームズの部屋へ来た女の人が話した、おそろしい出来事。夜中の口笛、開かない窓、ふたごの姉が死ぬ前に口にした「まだらひも」とは…。

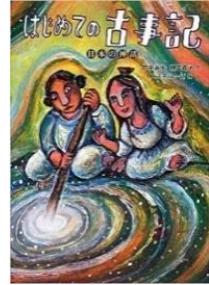


ピッピはとっても力持ち！ 馬だってらくらく持ち上げます。

ホームズは、初めてたずねてきた女の人が、汽車と一緒に馬車に乗ってやってきたことを、ピタリと当てます。

かみさま 神様の本

『はじめての古事記』 むかしむかし、大むかし。この世のはじめには、天もなく地もなく、ただ、もやのようなものが、うずまいているだけでした…。天地創造からはじまる、日本の神話『古事記』は、大昔の日本人がどんなふうに考え、感じていたのかを、おおらかに伝えるものがたりです。



『いなばのしろうさぎ』

古事記の中にでてくる、有名なお話です。サメをだまして海をわたろうとして、皮をはがされてしまったウサギは、とおりかかった神の、オオナムヂ（大国主）にたすけられます…。

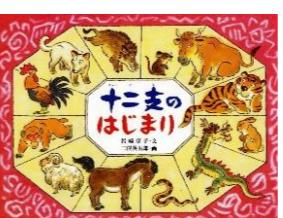


←あれ？ このうさぎさん、白くないよ！？ じつは、しろうさぎとは？？？ (この本をよんだらわかるよ！)

『ね、うし、とら…十二支のはなし』

中国民話より

日本の民話とはちがうストーリーです。ウシとネズミのどちらを一番にするかは、皇帝の前で知恵くらべをして決まりました…。エキゾチックな絵もすてきです。（ほるぷ出版）



(教育画劇)

ゆき 雪の本

『雪の写真家ベントレー』 (BL出版)

家族の愛情に見守られ、ひたむきに雪を追いつづけたベントレーの生涯を、美しく



ぬくもりのある版画とともににつづった伝記絵本…。

日本の中谷博士が研究を始めたのも、ベントレーの雪の結晶の写真集を目にし、その美しさに感動したことがきっかけでした。



『雪の結晶ノート』

(あすなろ書房)

雪の結晶はどのようにして生まれるのか？

なぜこんな形をしているのか？

水と空気の織りなす「自然の芸術」、その自然の神秘にせまる写真絵本…。雪の結晶の観察の仕方ものっています！



ゆき てん おく てがみ 雪は天から送られた手紙である

なかやう きちろう
中谷宇吉郎

世界で初めて人工的に雪の結晶をつくるなど、一生を雪と氷の研究にささげた日本の科学者の言葉。